

令和4年度水質事故対応訓練を実施しました

群馬用水は、県央地域7市町村約6,300haの農地と8市町村約100万人の飲み水を供給することにより地域を潤す非常に重要な施設です。

群馬用水では、平成20年に水路内へ油を不法投棄される事態が発生し、水資源機構 群馬用水管理所は事態の収束に全力で取り組みました。

これを契機に水資源機構では、群馬用水の水を利用している浄水場、土地改良区等の関係機関と連携し、油流出を想定した水質事故対応訓練を毎年行っています。

<平成20年の油不法投棄の概要>

発見状況：平成20年6月17日の朝6時30分頃、赤城幹線水路内において油が流れていると連絡。

対応状況：幹線水路等にオイルフェンスを設置し、油の回収（吸着処理）、被害拡大防止、監視を実施。発生から24日後の7月11日に態勢を解除。（利水者、消防等の関係機関にも協力を頂く）

原因究明：水路沿いで油が投棄された形跡が発見されたが、原因者等は不明。

被害：農業・水道において被害は発生していない。

今年度は、11月1日（火）の小雨が降る中、NPO法人自然エネルギー・環境協会の講師をお招きし、群馬用水管理所職員14名、関係利水者15名の参加者が水質事故対応訓練を実施しました。

訓練では、座学として講師から油と中和剤と呼ばれる薬剤の特性や油が流出した際の対処方法など「油流出事故対策等」の講義を受け、その後、オイルフェンスの連結方法、ロープワークの指導を受けました。

実地訓練では、指導を受けたロープワークの練習や、群馬用水榛名幹線の水路に実際にオイルフェンスを設置する訓練を機構職員と関係利水者と協働して実施しました。

油流出時の基礎知識やロープワーク、オイルフェンス設置といった訓練は、継続していくことが肝要であると考えておりますので、今後も職員の防災知識の向上、技能の習熟に努めてまいります。

※ 群馬用水管理所では、幹線水路の各所にオイルフェンス等吸着資材の配備を行っています。

油の流出事故があった場合には、被害の拡大防止のために迅速な対応が重要となります。水路等で油が浮いているのを見かけた際は、群馬用水管理所までご一報お願いいたします。

独立行政法人水資源機構 群馬用水管理所 TEL：027-251-4266

[訓練状況：群馬用水榛名流況安定施設敷地内及び榛名幹線水路にて]

①講義

NPO 法人自然エネルギー・環境協会より油の特性等による実演を交えた講義を受けました。



②講義

油に中和剤を入れると、油の粒子が細くなり水中に分散して吸着回収ができなくなります。(中央)このため、水路では中和剤を使うことはできません。



③ロープワークの練習

オイルフェンスの設置に使う「もやい結び」と「巻き結び」を練習しました。



④オイルフェンスの連結

1本2mの吸着型のオイルフェンスは、水路幅に合わせて連結して使用します。



⑤設置訓練

オイルフェンスは、水路に対して斜めに隙間なく張るように練習しました。斜めに張ることで油の回収が容易になります。



⑥設置訓練

6班編成により6重にオイルフェンスを設置しました。実際の水質事故でも2重、3重に設置すると効果が高まります。

